

原爆で犠牲になられた方に、町内会を代表して謹んで哀悼の誠を捧げます。

73年前の8月6日、広島に落とされた原爆の破壊力はすさまじく、一瞬にして市内を消滅させました。

焼野原に残されたのは、数えきれない亡骸と、体・心・生活を破壊され、傷ついていた多くの市民でした。

このふりかえりの塔は、「千田町1丁目のみなさん、あの日、あの時を繰り返さないよう、その悲しい出来事をいつまでも覚えて於いてほしい」そんな思いで町の先輩たちが苦勞をして建てたと記録が残されています。

私たちが日々暮らしている周りには、少なくなりましたが、被爆後何かと苦勞を重ね生きてきた方、また役員さんの中にも物心ついた時には親が原爆で亡くなっていた方もおられると聞いています。

今日は大野さんから語り部としてのお話を、後ほど場所を移してお聞きしますが、是非皆さんの周りの方のお話も聞いて下さい。原爆・そして、それをもたらした戦争がどのようなものであったか。多くの事実を知って欲しいです。

湯崎県知事は、過去の平和宣言でこのようなお話をされています。

核兵器は、永遠に廃絶されなくてはなりません。

核兵器があれば安全は守られる、というのは頭の中での「神話」に過ぎません。一方広島・長崎が示しているのは、核兵器の使用の結末という「現実」であります。

人類の叡智は、核兵器をいかに地球上からなくしていくのか、そのために使われなければなりません。

ここ数年、日本の世情が戦争前と似てきているのではとよく言われます。

ふりかえりの塔を前に、原爆が、戦争が何をもたらしたのか、その現実を見つめて、私たちも湯崎県知事が平和宣言で述べている想いに寄り添い、戦争を起こさせない世論を、核兵器と縁を切る世論を作って行く一翼を少しでも担って行きたいと考えます。

終わりになりますが、今日はお暑い中慰霊祭にご参列いただき誠にありがとうございました。

また、ご準備いただいた皆様に御礼申し上げます。

簡単ではございますが、ふりかえりの塔慰霊祭のあいさつとさせていただきます。

2018年7月28日

千田町一丁目町内会長 小野本利明